








会 告

(社)農業土木学会第37回通常総会の報告	93
平成16年度名誉会員の推挙	93
第19期理事役職者の選任について	95
第19期理事の会務担当について	95
平成17年度農業土木学会賞候補の推薦について	95
平成16年度日本農学賞候補の推薦について	96
「農業土木学会の名称を考える(仮)」シンポジウムの開催について(第1報) 	96
第20回水土技術セミナー「農業農村整備業にともなう環境評価手法;環境評価のノウハウ GISと植生調査」 	96
第7回中央講習会の開催について(第1報) 地域環境工学シリーズの解説 	97
第28回水の週間「ウォーターフェア2004東京」農業用水の展示出展について.....	97
2003年度農業工学関連分野 JABEE 認定校および認定プログラムの決定	97
平成16年度農学系 JABEE 審査員養成研修会への参加のお願い 	97
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	98
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め.....	98
農業土木学会誌への投稿お待ちしております!小特集以外の投稿も歓迎します。	99
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成17年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	99
第53回北海道支部研究発表会の開催について(第1報) 	100
平成16年度東北支部総会・第48回研究発表会並びに第38回支部研修会・第28回地方講習会について 	100
第61回京都支部研究発表会の開催について(第2報) 	100
平成16年度(第85回)九州支部講演会・シンポジウム開催について(第1報) 	102
第43回(平成16年度)畑地かんがい研究集会開催について 	102
農地保全研究部第25回研究集会(第1報) 	103
平成16年度農村計画研究部会研修会(第26回現地研修集会)の開催について(再) 	103
第54回理論応用力学講演会講演募集.....	104
学会記事	105
































農業土木学会(本部)行事の平成16年度計画

農業土木学会(本部)16年度行事について、下表のように計画しています。奮ってご参加下さるようお願いいたします。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中()を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成16年9月 7~10日	平成16年度大会 運営委員会	平成16年度大会講演会 		札幌市	72巻 136号
平成16年9月7日	"	シンポジウム 	「農業土木学会の名称を考える(仮)」	"	72巻 7号
平成16年9月 15日~17日	高度技術セミナー 実行委員会	第20回水土技術セミナー 	GISと植生調査	つくば市	72巻 7号
平成16年9月 29日~30日	行事企画委員会	第7回中央講習会 	地域環境工学シリーズの解説	東京	72巻 7号

農業土木学会関連行事予定

平成 16 年 8 月 26~27 日	農村計画研究部会	第 26 回現地研修集会		みんなで描く山里ものがたり (仮)	岐阜県 高山市	72巻6号
平成 16 年 9 月 1,2 日	畑地かんがい研究部会	第 43 回研究集会		畑作営農と畑地かんがい	広島県文化 センター	72巻7号
平成 16 年 9 月 8 日 (予定)	材料施工研究部会	企画セッション		基盤系科目では何を教えねば ならないか	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月 16~17 日	関東支部	第 55 回関東支部講演会			静岡県 浜松市	72巻5号
平成 16 年 9 月	水文・水環境研究部会	企画セッション		地球規模水循環変動から見た 水と食料	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農村道路研究部会	企画セッション		寒冷地における農道整備の現 状について	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	応用水理研究部会	企画セッション		農業土木分野における応用水 理学研究の課題	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農村計画研究部会	企画セッション		畜産酪農資源をめぐる循環型 農村地域形成の展望	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農村生態工学研究部会	企画セッション		農村生態工学が果たす役割	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	資源循環研究部会	企画セッション		農業土木学における資源循環 への貢献 バイオマス資源の エネルギー変換	北海道 札幌市	
平成 16 年 9 月	農業水利研究部会	研修会				
平成 16 年 10 月	農村生態工学研究部会	地方研究会			兵庫県	
平成 16 年 10 月 13 日	中国四国支部	第 59 回研究発表会			岡山市	72巻6号
平成 16 年 10 月 14~15 日	水文・水環境研究部会	第 17 回シンポジウム		農林地および広域の水文・水 環境	茨城大学 農学部	72巻5号
平成 16 年 10 月 26 日	中国四国支部	第 33 回支部研修会			高知市	72巻6号
平成 16 年 10 月 27 日	中国四国支部	第 28 回地方講習会			高知市	72巻6号
平成 16 年 10 月 27 日	北海道支部	第 53 回研究発表会			帯広市	72巻7号
平成 16 年 10 月 28,29 日	九州支部	第 85 回支部講演会・シンポジウム			熊本市	72巻7号
平成 16 年 10~11 月	農村道路研究部会	平成 16 年度研究発表会及び 現地見学会				
平成 16 年 11 月 4,5 日	東北支部	平成 16 年度総会・研究発表会・ 支部研修会・地方講習会			仙台国際 センター	72巻7号
平成 16 年 11 月 9,10 日	農地保全研究部会	第 25 回研究集会		低平地における農地保全と地 域資源の活用 (仮)	佐賀市	72巻7号
平成 16 年 11 月 18,19 日	京都支部	第 61 回研究発表会			大津市	72巻6,7号
平成 16 年 11 月	土壌物理研究部会	第 43 回研究集会				
平成 16 年 11 月	農村生態工学研究部会	平成 16 年度研究部会発表会			幕張メッセ	
平成 16 年 11 月 24~26 日	資源循環研究部会	平成 16 年度 (第 2 回) 研究発表会		農村における水やバイオマス 等有機資源の利活用および循 環に係る調査・研究	幕張メッセ	72巻6号
平成 16 年 11 月 25 日	北海道支部	第 30 回シンポジウム			北海道 札幌市	
平成 16 年 12 月 中旬	材料施工研究部会	第 42 回シンポジウム		水利施設のストックマネージ メント	茨城県 つくば市	72巻9号 (予定)
平成 16 年 12 月	応用水理研究部会	平成 16 年度応用水理研究部会講演会		応用水理学分野の研究発表	福岡市	72巻10号 (予定)
平成 17 年 1 月	農村生態工学研究部会	地方研究会			栃木県	
平成 17 年 1 月	関東支部	地方講習会および支部研修会			神奈川県	
平成 17 年 1 月 26 日	北海道支部	支部講演会			北海道 札幌市	
平成 17 年 3 月	水土文化研究部会	第 2 回水土文化研究部会		水土文化の持つ機能と共有認 識に向けて	農業工学 研究所	

社団法人農業土木学会第37回通常総会の報告

第37回通常総会を開催したので、報告いたします。

1. 日 時 平成16年5月18日(火) 15:00~16:00
2. 場 所 東京都港区虎ノ門4丁目1-1
虎ノ門バストラル新館4階アイリスガーデン
3. 出席者(代議員総数110名)
堀井健次, 黒子高夫, 堤 聡, 西田憲史, 斉藤正樹, 石島光男, 阿部隆弘, 森田悦生, 瀧戸淑章, 西内 靖, 高田 治, 大浜逸也各代議員ほか, 委任状提出による代議員88名, 計100名
4. 開 会
事務局より出席者(委任状提出者も含む)が, 定款第30条の規定の定足数に達していることを確認し, 有効に成立している旨を告げ, 開会を宣した。
5. 会長挨拶 三野 徹会長挨拶
6. 議長選出
三野 徹会長を仮議長とし, 定款第28条の規定により議長選出を諮り, 全員一致をもって堤 聡代議員を議長に選出した。
7. 議事録署名人選出
議長への指名一任により, 議長は次の2名を指名し, 議事録署名人に選出した。
堀井健次代議員 斉藤正樹代議員
8. 議案審議
 - (1) 議案1. 平成15年度事業報告
事務局から, 「第37回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。
 - (2) 議案2. 平成15年度収支決算
事務局から「第37回通常総会議案」により内容を説明。駒村監事が監査報告を行い, 原案どおり承認された。
 - (3) 議案3. 平成16年度事業計画
事務局から「第37回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。
 - (4) 議案4. 平成16年度収支予算
事務局から「第37回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。

- (5) 議案5. 名誉会員の推挙
事務局から「第37回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり承認された。
- (6) 議案6. 第18期役員の選任
事務局から役員選任方法(代議員による選挙等)について説明。定款付則(平成12年5月24日第31回通常総会議決)3の規定により, 平成16年5月31日をもって, 任期満了となるので定款第19条第1項の規定により, 下記役員27名を6月1日より2年間の役員として選任(再選され重任する役員11名, 新たに就任する役員16名)された。

再選され重任する役員(11名)	加藤 治
理事 青山 咸康	加藤 誠
有田 博之	古賀 潔
岩崎 和巳	佐藤 隆
河野 英一	櫻井 雄二
近藤 勝英	田中 忠次
千賀裕太郎	土谷富士夫
中野 芳輔	中島 克己
松浦 良和	橋本 正
松木 勝	船野 龍平
森田 昌史	水主 洋三
監事 駒村 正治	宮本 幸一
新たに就任する役員(16名)	三輪 弼
理事 赤江 剛夫	監事 池田 文雄
天谷 孝夫	

9. 閉 会
議長は, 以上をもって全議案の審議を終了した旨を述べ, 総会は終了した。上記議決を明らかにするため, 議長及び議事録署名人は次に記名押印する。
平成16年5月18日

社団法人農業土木学会第37回通常総会
議 長 堤 聡
議事録署名人 堀井 健次
議事録署名人 斉藤 正樹

平成16年度名誉会員の推挙

第37回通常総会の議により, 平成15年12月19日改正の名誉会員推挙の内規に則って次の正会員(敬称略)を名誉会員に推挙し, これにより名誉会員の現在数は142名になりました。

秋山 光	理 事(1期2年)	江角 武良	会員を30年以上継続した80歳以上の者
安保 文夫	会員を30年以上継続した80歳以上の者	大久保恭輔	評議員(4期8年)
石光 研二	委託委員会委員長(5年)	太田 頼敏	会員を30年以上継続した80歳以上の者

大塚 忠夫	評議員(2期4年)	土崎 哲男	評議員(8期16年)
大根 義男	委託委員会委員長(5年)	土門 隆三	評議員(2期4年)
大畑 温憲	評議員(2期4年)	豊田 久承	会員を30年以上継続した80歳以上の者
岡本 雅美	理事(2期4年),委託委員会委員長(4年)	内藤 克美	理事(副会長(2期4年),評議員(3期6年),学術賞第36回(昭和62年)
落合 敏郎	会員を30年以上継続した80歳以上の者		
	学術賞第17回(昭和43年)	仲野 良紀	学術賞第24回(昭和55年)
岸本良次郎	評議員(3期6年)	中原 通夫	理事(1期2年)
鬼原 文二	会員を30年以上継続した80歳以上の者	中谷 三男	理事(支部長(1期2年),評議員(4期8年)
吉良 八郎	理事(支部長(1期2年)	新家 信一	会員を30年以上継続した80歳以上の者
	学術賞第33回(昭和59年)	西田 誠	会員を30年以上継続した80歳以上の者
	会員を30年以上継続した80歳以上の者	西村 順	会員を30年以上継続した80歳以上の者
倉田 博夫	会員を30年以上継続した80歳以上の者	野村 安治	評議員(2期4年)
黒岩 郁夫	会員を30年以上継続した80歳以上の者	浜野 武富	会員を30年以上継続した80歳以上の者
小林 満	理事(支部長(1期2年)	百元 和夫	評議員(3期6年)
	会員を30年以上継続した80歳以上の者	細谷 信行	評議員(3期6年)
板根 勇	評議員,代議員(6期11年)	前田 一男	会員を30年以上継続した80歳以上の者
佐藤 晃一	理事(2期4年),学術賞45回(平成8)	前田 良雄	会員を30年以上継続した80歳以上の者
佐守 達四	評議員(2期4年)	増井 正	会員を30年以上継続した80歳以上の者
城野 忠雄	評議員(2期4年)	水野 一明	会員を30年以上継続した80歳以上の者
白石 健次	会員を30年以上継続した80歳以上の者	水之江政輝	会員を30年以上継続した80歳以上の者
白石 英彦	理事(2期4年),理事(専務理事(4期8年),	南 信弘	評議員(3期6年)
	評議員(2期4年)学術賞第18回(昭和44年)	村上 康蔵	評議員(8期16年)
鈴木 敬	理事(支部長(1期2年),評議員(2期4年)	村田 稔尚	理事(2期4年)
須藤良太郎	評議員(2期4年)	湯浅 吾一	会員を30年以上継続した80歳以上の者
関谷 光博	評議員(2期4年)	湯川 清光	評議員(6期12年)
田中 通夫	会員を30年以上継続した80歳以上の者	吉田 昭治	理事(支部長(1期2年),学術賞第48回(平成11年)
田辺 邦美	会員を30年以上継続した80歳以上の者		
田野崎岡夫	会員を30年以上継続した80歳以上の者	四方田 穆	理事(2期4年),理事(支部長(1期2年),評議員(2期4年)
近森 邦英	理事(支部長(1期2年)		

「名誉会員の推挙に関する内規」

(昭和36年3月24日理事会)

(昭和50年2月24日改正)

(平成9年12月16日改正)

(平成10年2月20日改正)

(平成15年12月19日改正)

名誉会員候補に推薦される方は、次の各項のいずれかに該当するものとする。

1. 学会の運営または学会発展に尽力された正会員で、次のいずれかに該当する者

- (1) 会長をつとめた65才以上の者
- (2) 役員をつとめた70歳以上の者
- (3) 各種委員会委員長,評議員,代議員等の在任期間の合計が4年以上を超え,70歳以上の者
- (4) 会員を30年以上継続した80歳以上の者

2. 農業土木に関する研究または技術に関し、とくに功績が顕著であると認められた70歳以上の者で農業土木学会賞学術賞またはそれに相当する賞を受賞した者

3. その他特に理事会において認められた者

付則 この改正内規は、平成15年12月19日から施行する。

第 19 期理事役職者の選任について

第 19 期理事役職者の互選が定款第 9 条（役員を選任）により、第 188 回理事会（平成 16 年 6 月 4 日開催）で行われ、次のとおり選任されました。

会 長 田 中 忠 次（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
 副 会 長 森 田 昌 史（全国農村振興技術連盟委員長）
 副 会 長 中 野 芳 輔（九州大学大学院農学研究院教授）
 副 会 長 松 浦 良 和（水資源機構理事）
 専務理事 岩 崎 和 巳（（社）農業土木学会）

第 19 期理事の会務担当について

平成 16 年 6 月 4 日開催の第 188 回理事会において、本会規則第 14 条（理事の担当）および第 26 条（委員長・委員・幹事）により、第 19 期理事の会務担当および常置委員会委員長等を次のとおり決めました。

記

1. 第 19 期担当部門および担当理事

担当部門	統括する副会長	担当理事
運營業務	森田 昌史	有田博之、橋本 正、天谷孝夫、近藤勝英、松木 勝、水主洋三
学会誌等定期刊行物活動	中野 芳輔	赤江剛夫、古賀 潔、河野英一、宮本幸一、水主洋三、土谷富士夫、三輪 式、加藤 誠、青山咸康、櫻井雄二、加藤 治
講演会等行事活動	松浦 良和	橋本 正、宮本幸一、中島克己、水主洋三、船野龍平、佐藤 隆
調査・研究活動	中野 芳輔	千賀裕太郎、河野英一、中島克己、近藤勝英、船野龍平
出版活動	松浦 良和	有田博之、千賀裕太郎、近藤勝英、佐藤 隆
国際活動	中野 芳輔	古賀 潔、天谷孝夫、松木 勝
技術者教育活動	森田 昌史	中野芳輔、赤江剛夫、橋本 正、宮本幸一、中島克己、水主洋三、船野龍平、佐藤 隆
支部業務	森田 昌史	土谷富士夫、三輪 式、加藤 誠、青山咸康、櫻井雄二、加藤 治

2. 第 19 期常置委員会委員長等

企 画委員会	橋本 正	学会賞選考委員会	中野 芳輔
広 報 "	近藤 勝英	出版企画 "	有田 博之
学術基金運営 "	森田 昌史	国 際 "	天谷 孝夫
定期刊行物 "	中野 芳輔	行事企画 "	松浦 良和
学会誌編集 "	赤江 剛夫	JABEE 審査 "	中野 芳輔
論文集編集 "	河野 英一	JABEE 担当	船野 龍平
PWE 日 本 "	古賀 潔	継続教育機構担当	中島 克己
研 究 "	千賀裕太郎	スチューデント委員会担当	天谷 孝夫
上野賞選考 "	中島 克己		

平成 17 年度農業土木学会賞候補の推薦について（再）

平成 17 年度の農業土木学会賞（上野賞を除く）を、第 72 巻 6 号、p 64 の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。締切りは、平成 16 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

日本農学賞候補の推薦について(再)

日本農学賞候補を、本誌第72巻第6号、p.65の推薦取扱規程に則って、ご推薦下さい。締切は、平成16年9月末日です。

「農業土木学会の名称を考える(仮)」シンポジウムの開催について(第1報)
学会名称検討委員会(仮称)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成16年度大会講演会第1日目、農業土木学会賞受賞者講演に続いて、標記シンポジウムを下記のように開催致しますので、奮ってご参加下さい。(詳細は次号でお知らせ致します。)

日時 平成16年9月7日(火) 13:00~14:30

話題1 これまでの農業土木学会の評価

場所 北海学園大学 豊平キャンパス 60番教室

話題2 農業土木をめぐる状況の予測

会長挨拶

話題3 農業土木の将来

第20回水土技術セミナー「農業農村整備事業にともなう環境評価手法；
環境評価のノウハウ-GISと植生調査-」
高度技術セミナー実行委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



近年、農業農村整備事業の実施にあたり、環境への配慮が不可欠となっています。本セミナーでは、配慮すべき環境として、水質、動植物の生態系、景観等の主要な環境項目をとりあげ、調査から解析・とりまとめの方法まで実習を中心に講習します。

そのうち、本年度は、シリーズの2回目として環境アセスメント手法の概要並びにGISの利活用方法および植生調査の実際についてセミナーを開催します。行政現場や業務で種々の環境問題に接する技術者の皆さんにとって、有益な学習となることと信じています。奮っての参加をお待ちしています。

1. テーマ 「環境評価のノウハウ - GISと植生調査 - 」

農業工学研究所のそれぞれの専門家です。

2. 開催時期 平成16年9月15日(水)~17日(金)

天候不良の場合には、植生調査(実習)は室内で行う場合があります。

3. プログラム

9月15日(水)9:00~17:00

9:00 開会

午前 環境アセスメントの概要, GISの利用(講義)

午後 GISの利用(講義および演習)

9月16日(木)9:00~17:00

午前 GISの利用(演習)

午後 植生調査(講義)

9月17日(金)9:00~16:00

午前 植生調査(実習)

午後 植生調査(実習), 修了書授与

GISの講義および演習では試用版を使うためGISライセンスは不要です。

講師は、ESRI ジャパン(株),(独)農業環境技術研究所,(独)

4. 場所 つくば市(予定)

5. 募集人数 20名

6. 受講費 会員50,000円(消費税5%,テキスト代を含む)
非会員60,000円(消費税5%,テキスト代を含む)

7. 募集締切 平成16年8月20日(金)

8. 申込先 農業土木学会高度技術セミナー実行委員会担当宛
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
電話03-3436-3418 FAX03-3435-8494

参考 環境評価に関するセミナーは、次のような計画で、順次実施する予定です。

2004年度: 植生調査, GIS

2005年度: 水生生物, その他陸上生物

第7回中央講習会の開催について(第1報)

—地域環境工学シリーズの解説—

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農業土木学会刊行の「地域環境工学シリーズ」は、農業土木学が目指すべき方向性を示唆する好著として各界から高い評価を受けています。農業土木学会では、今年度も、執筆に参画された諸先生方を中心に、それぞれのご専門の視点から地域環境工学を解説して戴くことを予定しています。多数のご参加をお待ちしております。*プログラム等詳細は、追ってお知らせ致します。

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-------------------------|
| 1. 主催 | 農業土木学会行事企画委員会 | 3. 場所 | 東京大学弥生講堂(東京都文京区弥生1-1-1) |
| 2. 期日 | 平成16年9月29日(水)~30日(木) | 4. テーマ | 地域環境工学シリーズの解説 |

第28回水の週間「ウォーターフェア2004東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア2004東京「水の展示会」』は、例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も農業土木関係諸団体の協力を得て、農業土木学会が農業用水展示実行委員会(委員長 後藤章 宇都宮大学農学部教授)を設けて企画し、ウォーターフェア2004への出展は、岐阜県が担当いたします。このほかに水資源機

構、河川情報センター、日本治山治水協会などの出展を予定しておりますので、多くの方の参加をお願いいたします。

- 展示テーマ 未来へつなぐ“^{いのち}生命の水”
~日本まん真ん中 ぎふ から~
- 展示の場所 科学技術館(千代田区北の丸公園2-1)
- 期 日 平成16年8月1日~8月7日

2003年度農業工学関連分野 JABEE 認定校および認定プログラムの決定

2003年度に農業工学関連分野として日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education)へ、プログラム認定を申請していた下記3校4プログラムは、平成16年5月10日のJABEE理事会をもってすべて認定を受けました。(なお、2003年度に認定を受けた全プログラムはJABEEのホームページ: http://www.jabee.org/OpenHomePage/accredited_programs.htmに掲載されています。)

- | | | |
|----------------------|-------------------|-----------------------|
| 宇都宮大学農学部農業環境工学科 | 水士環境工学プログラム[2003] | 食料生産システム工学プログラム[2003] |
| 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科 | 農業土木プログラム[2003] | |
| 日本大学生物資源科学部生物環境工学科 | 地域環境工学プログラム[2003] | |

平成16年度農学系 JABEE 審査員養成研修会への参加のお願い

技術者教育認定に関する検討委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



標記農学系 JABEE 審査員養成研修会が、平成16年7月31日(土)~8月1日(日)に東京大学弥生講堂において開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。奪って、ご参加ください。(なお、プログラム等、詳細は農業土木学会ホームページをご参照下さい)

日 時:平成16年7月31日(土)9:00~17:30(17:30より懇談会有) 8月1日(日)9:00~12:30頃

場 所:東京大学弥生講堂〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内 <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

参加費:5,000円(当日現金にて支払い) 懇談会費:2,000円(当日現金にて支払い)

申込方法:農業土木学会ホームページより、申込書および審査員登録票(電子メール版)をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記に電子メールで申込み。

申込締切:平成16年7月16日(金) 申込先:農業土木学会事務局 吉本峰子宛:mineko@jsidre.or.jp 花塚賀央宛:hanatsuka@jsidre.or.jp

JABEE 審査チームは、この研修の受講者で編成することが義務づけられています。しかし、とくに大学の先生方の受講が少なく、このままでは審査要請に応じられない事態が予想され、非常に危惧しております。各大学間の相互支援でもありますので、先生方には是非受講くださるようお願いいたします。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年6月にはVol 2 No 2が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

農業土木学会は, 300 人の国際学会員を募る義務を負っておりますが, 現在会員数は 256 名(6 月現在)であり, いまだ目標会員数には達していません。そのため, 編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき, 多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年6月にはVol 2 No 2が発刊されます。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制:

- Editor in Chief: Dr. Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board には世界各国から新界の権威が就任しています。
- Managing Editors: Dr. Yoshisuke NAKANO (Japan), Dr. Nobumasa HATCHO (Japan), Dr. Yoshito YUYAMA (Japan), Dr. Ke Sheng CHENG (Taiwan), Dr. Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社: Springer Verlag 社(ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿先: 農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。

農業土木学会誌編集委員会

73巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第73巻2号～5号までの小特集のテーマ（予定）

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切（必着） （A4判用紙,1,500字以内）	原稿締切 （刷上り4ページ）
2号 ブロック編集担当号の予定です。		
3号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発，食糧自給率（仮）	平成16年9月6日	平成16年10月12日
4号 流域の水環境管理（減水深を含む）（仮）	“ 9月30日	“ 11月10日
5号 技術者資格（仮）	“ 10月25日	“ 12月10日

**あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか
—平成17年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—**

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成17年も皆さまからの写真で表紙を飾ることを企画しました。つきましては、下記の要領で学会誌73巻（平成17年1～12月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3～4枚の写真を組み合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. **趣 旨** 近代に至るまで、わが国の農業土木技術者たちはその時々の技術を結集し、稲作、ひいては国土を支えてきました。こうして築かれた「造形」の多くは周辺の風景と一体化しつつ、今もなお、その機能を十分に発揮しています。

学会誌編集委員会では、農業土木の先駆けとなったそうした農業水利遺産を見直すために、「先人たちの造形が織りなす風景」をテーマとし、学会誌の表紙を飾る写真を公募します。皆さんの身近なところやふるさとの、先人たちの想いに心寄せながら、心に残る「一枚」を見つけ、ぜひお送りください。

なお、本来の機能を発揮している灌漑期だけでなく、静かにたたずむ非灌漑期の写真も、お待ちしております。

2. **写真の種類** 単写真、組写真いずれもカラープリントでサイ

ズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。

3. **枚 数** 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. **締 切** 平成16年9月30日（必着）

5. **審 査** 審査委員会（編集委員と写真家）で12点を選びます。

6. **結果発表** 学会誌73巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成17年度大会会場でパネル展示します。

7. **賞 品** 入選作品1点につき3万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお贈りします。

8. **応募資格** 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。

9. **その他** 応募写真の裏面にタイトル、住所、氏名、年齢、職業、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ）を記入して下さい。また、対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、（社）農業土木学会に属します。

10. **宛 先** 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4（社）農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

第53回北海道支部研究発表会の開催について(第1報)

1. 期 日 平成16年10月27日(水)
2. 会 場 帯広市・とかちプラザ(帯広市西4条南13丁目)
3. 研究発表申込
発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と、発表形式の希望(口頭またはポスター)を、メール、FAXまたは郵送にてお申込下さい。
4. 発表申込締切 平成16年8月31日(火) 発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。
5. 講演集原稿締切 平成16年10月8日(金)
6. 参加申込 下記様式により、メール、FAX、郵送にてお申込下さい。参加申込の締切は、平成16年10月15日(金)です。

所属機関 _____
 同上所在地 _____
 申込代表者 _____ TEL _____

氏 名	所 属	備 考

7. 発表・参加申込先
〒060 8589 北海道大学農学部農業工学科内
農業土木学会北海道支部事務局
担当: 柏木淳一 E-mail:kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
電話: 011 706 3641 FAX: 011 706 4145

8. 参加費用
研究発表会講演集代 2,000円(当日会場で申受けます。)

平成16年度北海道支部行事予定
 平成16年10月27日(水) 第53回研究発表会
 とかちプラザ(帯広市)
 平成16年11月25日(木) 第30回シンポジウム
 札幌サンプラザ(札幌市)
 平成17年1月26日(水) 講習会 札幌サンプラザ(札幌市)

平成16年度東北支部総会・第48回研究発表会 並びに第38回支部研修会・第28回地方講習会について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成16年11月4日(木)5日(金)
2. 会 場 仙台国際センター
〒980 0854 宮城県仙台市青葉区青葉山
☎022 265 2211
3. 内 容

	午前	午後
11月4日(木)	支部総会, 授賞式, 研究発表会, 情報交換会	
11月5日(金)	支部研修会, 地方講習会	

なお、情報交換会は「勾当台会館」で行います。
4. 講演の申込と参加費
今年度の大会は宮城県で開催されますが、講演発表のプログラム等は岩手大学が担当します。
そこで、研究発表会の講演申込みと参加費納入先が、それぞれ下記のように異なりますので注意して下さい。

- A. 研究発表会の講演申込方法
(1) 講演申込 / 問合わせ先
講演要旨に投稿票を添えて、下記へお申込み下さい。
〒020 8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-8
岩手大学農学部 和田令子
☎019 621 6112, Fax.019 621 6204
E-mail reikwada@iwate-u.ac.jp
 - (2) 要 領
原稿の書き方については、本誌72巻6号(pp.70~73)を参照して下さい。
 - (3) 申込み受付期間 平成16年8月2日~8月31日
- B. 参加申込と参加費納入先 / 問合せ先
参加申込みと参加費納入先は、本誌72巻8号掲載予定の「第2報」を参照して下さい。

第61回京都支部研究発表会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会
(1) 日時 平成16年11月18日(木)
10:00~17:00(受付開始9:30~)
- (2) 会場 (開会式~講演会~分科会)
ピアザ淡海 県民交流センター
(滋賀県大津市におの浜一丁目1-20)
- (3) 会場までのアクセス
・JR 膳所駅から徒歩12分
・京阪電車石場駅から徒歩5分
・JR 大津駅から京阪・近江バスなぎさ公園線8分「ピアザ淡海」下車

2. 情報交換会

- (1)日時 平成16年11月18日(木)18:00~20:00
 (2)会場 ピアザ淡海内 ホテルピアザびわ湖「クリスタルルーム」(滋賀県大津市におの浜一丁目1-20)
 ☎077-527-6333

3. 現地研修会

- (1)日時 平成16年11月19日(金)(2コース)
 ・北コース 集合 9:00 大津駅
 解散 16:00 米原駅
 ・南コース 集合 9:00 大津駅
 解散 16:00 大津駅

(2)内容

- ・北コース(積極的に集落営農に取り組むほ場整備地区や水質保全対策地区を予定。琵琶湖水鳥・湿地センターを含むコース)
- ・南コース(複合経営型集落営農を確立したほ場整備地区や水質保全対策地区を予定。琵琶湖博物館を含むコース)

4. 投稿の申込等

(1)研究発表申込

原稿投稿に先立ち、平成16年7月末日までに研究発表申込を行ってください。

申込要領は、本誌6月号(Vol.72/No.6.)p.74ページの第1報を参照してください。

(2)原稿投稿先および期限

講演要旨原稿に投稿票を添えて、平成16年8月末日までに、下記に届くようお送りください。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
 京都大学大学院農学研究科 地域環境科学専攻
 小林 晃あて
 ☎075-753-6152 FAX 075-753-6346

(3)投稿要領

- ・投稿発表は、原則として農業土木学会会員としますが、非会員の方の投稿も受け付けます。ただし、非会員の方は支部賞授賞の対象にはなりません。
- ・投稿要領および原稿の書き方については、本誌6月号(Vol.72/No.6.)会告pp.70~73ページの「支部講演会の投稿票について」を参照してください。枚数は図面を含めて2枚とします。発表時間は12分(質疑応答は3分)です。原稿はそのまま印刷しますので鮮明なものを提出してください。発表の補助道具として、OHP、パソコン(OSはウィンドウズ、ソフトはパワーポイント2000)およびビデオプロジェクターを準備します。データはできる限りCD-Rでご用意ください。

5. 参加申込方法

(1)参加申込

参加申込は別記申込書により「7.申込・振込先」まで郵送

またはFAXでお申し込みください。

(2)申込期限 平成16年9月30日(木)

(3)参加費等

研究発表会 4,500円
 情報交換会 5,000円
 現地研修会 6,000円(昼食代含む)

(ア)昼食

ピアザ淡海内にレストランはありますが、混雑が予想されます。弁当を1,000円/個で受け付けていますのでご利用ください。

(イ)参加費の納入

申込を受付けた後、JTBEc オペレーションセンターより確認書・請求書送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「7.申込・振込先」へ10月末日までにお振込みください。振込手数料については振込人負担をお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

6. 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋をJTBを通じて行います。ご希望の方は、<http://www.agrifacility.kais.kyoto-u.ac.jp/staff/kobayashi/index.html>の京都支部研究発表会参加申込書をダウンロードの上、宿泊斡旋施設から施設をお選びいただき、「7.申込・振込先」へお申込みください。

(1)宿泊申込期限 平成16年9月30日(木)

(2)代金の納入 受付締切り後、JTBより宿泊予約確認書・支払い明細を送付いたしますので、内容を確認後、10月末日までにお振込ください。

(3)取消料 申込後の取消には、発生する場合があります。

7. 申込・振込先

(1)申込先

JTB西日本ECオペレーションセンター 担当:崎元
 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
 ☎06-6260-5076 FAX 06-6263-0717
 営業時間(月~金)9:00~17:00/土・日・祝日は休業日
 E-mail: machiko_sakimoto@kns.jtb.co.jp

(2)振込先

UFJ銀行 千代田支店 普通口座 5433244
 口座名(株)ジェイティビー

8. 問合せ先

滋賀県農政水産部農村整備課内
 第61回農業土木学会京都支部研究発表会運営委員会事務局
 担当 坪田,福井
 ☎077-528-3964(直通)FAX 077-528-4888
 E-mail: s225657@pref.shiga.jp

平成16年度(第85回)九州支部講演会・シンポジウム開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 講演会

(1)日 時 平成16年10月28日(木) 9:30~17:30

(2)会 場 メルパルク熊本(熊本市水道町15-11)
☎096 355 6311)

2. シンポジウム

(1)日 時 平成16年10月28日(木) 15:30~17:30

(2)会 場 メルパルク熊本(同上)

(3)課 題 未 定

3. 現地見学会

(1)日 時 平成16年10月29日(金) 9:00~15:00

(2)コース

農免農道事業による熊本アートポリス建造物「鮎の瀬大橋」
~日本一づくりによる清和文楽鑑賞(昼食)~歴史型施設保
全型の地域用水環境整備事業による「鼻ぐり井手」等を予定

4. 講演申込

(1)申込方法 講演希望者は、演題・氏名・勤務先・所属を明記
のうえ、「6事務局」までお申込み下さい。

(2)申込締切 平成16年8月13日(金)

(3)投稿要領 図・表・写真等を含めて、1題につき2ページま
たは4ページとし、3ページは受け付けません。

(4)講演時間 12分程度(質問・交代時間を含む)

(5)投稿締切 平成15年8月31日(火)必着

(6)投 稿 先 (〒840 0027)佐賀市本庄町1 佐賀大学農学部宛
(☎0952 28 8755 Fax 0952 28 8709)(7)原稿の書き方 平成16年度6月号(72巻6月号)の巻末イ
ンフォメーション・コーナーをご覧ください。

5. 参加申込

農業土木学会誌8月号に掲載予定

6. 事務局

熊本県農政部農地建設課検査技術管理係(農業土木学会九州
支部講演会事務局)

場 所: 〒862 8570 熊本市水前寺6-18-1

事務局長: 林 卓哉

担 当: 高瀬 晃美・岩村 豊作・村川 雅巳

(☎096 383 1111 内線5459・Fax 096 382 8623)

第43回(平成16年度)畑地かんがい研究集会開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



このたび「畑作営農と畑地かんがい」をメインテーマとして、
講演会並びに現地研修会を下記により開催することになりました。
畑地の整備が緊急の課題となっている今日、畑地かんがいの
意義と今後の方向について、自由な討論を通して確かめておくこ
とは非常に重要と思われる。

つきましては各農政局、各都道府県、各市町村および各会社、
団体におかれましては、この研究集会に多数参加されますようご
案内申し上げます。

共催:(社)農業土木学会畑地整備研究部会・(社)畑地農業振興会
後援:広島県

1. 期 日 平成16年9月1日(水)講演会

9月2日(木)現地研修会

2. 講演会

(1)会場: 広島県民文化センター ふくやま

〒720 8519 広島県福山市東桜町1-21 ☎084-921-9200

(2)日時: 9月1日(水)9時30分~17時00分

(3)課題: 「畑作営農と畑地かんがい」

1. 中国四国農政局管内の畑地かんがいと営農

中国四国農政局農村計画部

資源課補佐(営農)中河原正英

2. 最近の畑地かんがい機材

機材展示会社 5~6社

(昼 食)

3. わが国のカンキツ園における灌水技術の開発と課題

(独)農業・生物系特定産業技術研究機構

近畿中国四国農業研究センター 総合研究部

総合研究第2チ-ム長 森永 邦久

4. 八日谷地区の営農について

沼隈町果樹園芸組合 組合長 須野田 弘

5. 瀬戸田地区のかんがい施設更新について

広島県尾三地域事務所 農林局

農村整備第二課 主任 佐々木 拓治

6. 総合討論

(講演の順序 講師は都合により変更されることがあります。)

(4)会 費 9,000円/人

3. 現地研修会

会 費 8,000円/人

(1)日時: 9月2日(木) 集合 8時15分

場所 福山駅北口団体バス乗り場

(視察)

松永バィバス

出発8:30 9:15沼隈/八日谷9:40 (松永)

しまなみ海道

(視察)

尾道 瀬戸田IC10:50 11:00瀬戸田畑かん施設

(視察)

(昼食)

11:25 11:30垂水地区の営農状況 12:00 12:10瀬戸田

(見学)

すいぐん丸 12:55 13:00 耕三寺と平山郁夫美術館 14:30

しまなみ海道経由

14:35 瀬戸田すいぐん丸 14:40 16:00 福山駅

自由解散

4. 参加申込

(1) 講演会、現地研修会に参加希望の方は、下記様式により「FAX」または「ハガキ」で申込んでください。

なお、申込者(個人別)の所属先および農業土木技術者継続教育機構(CPD)の会員番号を備考欄に記入してください。

畑地かんがい研究集会参加申込書

(該当するところに 印をつけて下さい)

所 属							TEL
							FAX
申 込 代 表 者	(ふりがな)			住 所			
(ふりがな) 氏 名	年 齢	性 別	講演会 出席 欠席	現地研修会 出席 欠席	振込み 予定月日	備 考	
(例) ふくやまろう 福山太郎	45	男			8/10	所属先 農地整備課 (CPD)会員番号 NO.123456	
						所属先 (CPD)会員番号	

(2) 申込先 (社)畑地農業振興会

〒105 0012 東京都港区芝大門1-3-11

YSKビル6F

☎03 3438 2581 FAX 03 3438 2583

(3) 申込期限 平成16年7月30日(金)

なお、会場の都合により定員になり次第締切りますので、早めに申込んで下さい。

(4) 参加費用の払込

上記「畑地かんがい研究集会参加申込書」により申込と同時に、講演会費および現地研修会費を下記へお振込み下さい。参加費を予め振込めない場合は

振込予定月日を申込書(の欄)に記入して下さい。

なお、当日に会費を持参されることは、受付が混乱しますのでご遠慮願います。

講演会費および現地研修会費の振込みは下記にお願いします。

A. 郵便振替の場合 00120 4 95103 (社)畑地農業振興会

B. 銀行振込の場合 みずほ銀行 芝大門支店

普通口座 1180627 (社)畑地農業振興会

(5) 申込の取消または、変更が生じた場合の取扱い

講演会費および現地研修会費の振込み後、都合により取消または、変更される場合は8月10日までに、ご連絡いただいた場合に限り、全額お返しいたします。

ただし8月11日以降は、半額申し受けます。

農業土木学会 農地保全研究部会第25回研究集会(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催日

(1) 研究集会 平成16年11月9日(火)

(2) 現地見学会 平成16年11月10日(水)

2. 場所 佐賀市 はがくれ荘

3. 研究集会テーマ

低平地における農地保全と地域資源の活用(仮題)

詳細は農業土木学会誌8月号に掲載予定。

平成16年度農村計画研究部会研修会(第26回現地研修集会)の開催について(再)

農村計画研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



主 催 農業土木学会農村計画研究部会

後 援 岐阜県、水土里ネットぎふ(岐阜県土地改良事業団体連合会)

協 賛 農村計画学会

【第26回現地研修集会テーマ】

みんなで描く山里ものがたり

~古きをたずね、人と地域資源でつむぐ~

【日程】平成16年8月26日(木) 研修集会

8月27日(金) 飛騨高山現地検討会

【会場】飛騨・世界生活文化センター芸術堂

(岐阜県高山市千島町900 1 ☎0577 37 6111)

【プログラム】

(1) 研修集会 平成16年8月26日(木)9:30~17:00

講演「人と地域の宝を活かした最後の生き残りの道」
~岐阜県清見村の事例~

清見村助役 松葉 晴彦 氏

講演「地域資源に女性パワーを活かして」

~明宝レディースによる地域特産品づくり~

明宝レディース社長 本川 栄子 氏

事例報告「山里の知恵を伝える～荒城農業小学校～」

国府町新産業振興課長 牛丸 博和 氏

事例報告「古きをつなぎ、若者の居着く山里づくり」

山野村夢づくりの会代表 下梶 勝彦 氏

事例報告「山里の語り部」

滝町棚田保存会代表 中屋 栄一郎 氏

情勢報告 農林水産省農村振興局農村整備課

オープンディスカッション コーディネーター 岐阜大学教

授 松本 康夫 氏

(2) 飛騨高山現地検討会 平成16年8月27日(金)8:30～15:00

清見村(パスカル清見), 高山市(飛騨の里)ほか

【参加費用】

研修集会参加費 5,500円

現地検討会参加費 5,000円(昼食代1,000円含む)

【参加申込】

参加をご希望の方は、参加申込書(部会HPからダウンロードして下さい)に所要事項をもちろんご記入の上、FAX、Eメー

ルまたは郵送にてお申込みください。

(1) 申込期限 平成16年7月16日(金)

(2) 申込先 JTB イベント&コンベンションサービス

担当: 松原・辻井

〒500 8727 岐阜市神田町2 2岐阜商工会議所2F

FAX 058 264 1275(24時間受付)

Eメール jtbecgif@cjn.or.jp

【現地研修集会に関する問合わせ先】

農村計画研究会研修会現地運営事務局

〒500 8570 岐阜市葦田南2 1 1

岐阜県基盤整備部農地計画課調査計画担当

担当: 後藤, 板垣

☎058 272 1111(内線3176) FAX 058 271 6607

E-mail itagaki-shinji@pref.gifu.lg.jp

詳細については、本誌6月号pp.75～76をご覧ください。また、最新情報を部会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/2004.gifu.htm>)で提供しています。

第54回理論応用力学講演会講演募集

開催日 2005年1月25日(火)～27日(木)

開催場所 日本学術会議(東京都港区六本木7-22-34)

開催趣旨 日本学術会議主催「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織IUTAMの開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、おのおの分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

主催 日本学術会議 メカニクス・構造研究連絡委員会

共催 農業土木学会他18学会

ホームページ 本講演会に関するテーマ企画一覧等の詳細・最新情報は、<http://www.jsce.or.jp/nctam/>に掲載されています。参

照のうえ、下記申込等を行ってください。

講演申込 オーガナイズドセッション、一般セッションいずれも2004年9月24日(金)までに、本講演会ホームページからお申込み下さい。

講演論文集原稿 審査の結果、採択された講演については、A4版2ページのPDFファイルのみJ-STAGEの電子投稿システムを用いて提出いただきます(2004年11月19日(金)締切)。その際、1件の講演につき整理費2,000円を申し受けます。

英文論文 著者の希望により発表論文を改めて英文で投稿されると、査読による審査を経て後日発行する英文Proceedingsに収録されます。(詳細は講演会会期中、会場にてお知らせ致します)

問合せ先 実行委員会幹事 寺田賢二郎(東北大)

☎022 217 7417 / FAX 022 217 7127

E-mail:tei@civil.tohoku.ac.jp